

基本目標Ⅱ-1 地域資源をいかし、人が行きかうまちづくり



基本的な方向

- しごとはもとより、暮らしを重視した「まち選び」に対応するため、自然環境や文化芸術の豊かさなどさまざまな地域資源を磨き上げ、活用するとともに、地域のきずなの中での子育てなど、鳥取市のライフスタイルを広く周知しながら移住定住を推進するとともに、将来的な移住が期待される交流人口の拡大や関係人口*の創出・拡大に取り組めます。



数値目標

指標名	現状	目標
移住定住者数	R6年度 508人	R12年度 600人
観光入込客数	R6年 3,345千人	R12年 3,548千人



重点施策

- ① ふるさと回帰の促進
- ② 田舎暮らし環境の充実
- ③ まちなか居住の推進
- ④ 若者定住の推進
- ⑤ 関係人口*の拡大
- ⑥ 山陰海岸ジオパーク*をいかした取組の推進
- ⑦ 世界に誇る鳥取砂丘の魅力をいかした観光振興
- ⑧ 地域の観光資源の磨き上げ
- ⑨ 観光関連産業の育成・支援と振興
- ⑩ 広域観光連携の推進
- ⑪ 新たなインバウンド*需要の獲得を見据えた戦略的な国際観光の推進
- ⑫ スポーツによる交流人口の増加
- ⑬ 文化芸術活動の促進
- ⑭ 伝統文化の保存・継承
- ⑮ 文化芸術活動・鑑賞機会の充実
- ⑯ 文化財の保護



主な取組

鳥取砂丘の魅力をかした観光振興

日本有数の観光地「鳥取砂丘」では、滞在環境の上質化に向け、「鳥取砂丘フィールドハウス」や「ヤマタ鳥取砂丘ステーション」の開業など、新たな観光拠点の整備を進めてきました。

令和7年には鳥取砂丘やまちなかエリア一帯の周遊性の向上を目的に、シェアサイクルによるサービスをスタートしたほか、令和8年には旅ナカの観光案内にAI*チャットボット*を導入するなど、二次交通の充実や旅ナカの観光情報の発信に取り組めます。

また、砂の美術館における世界トップレベルの砂像の展示、令和10年のマリオット・インターナショナルをブランドとするリゾートホテルの開業など、鳥取砂丘エリアのさらなる魅力向上に向けた取組を進めていきます。



シェアサイクル



砂の美術館の砂像展示

史跡鳥取城跡の復元整備によるにぎわいづくり

鳥取城は、戦国時代に羽柴秀吉の兵糧攻めの舞台となった山城として有名ですが、石垣が幾重にも広がる山麓城跡の姿は、鳥取藩32万石の居城として江戸時代に整備されたものです。

本市は鳥取城の姿をわかりやすく後世に伝えるため、復元整備事業を進めています。平成30年には大手橋にあたる擬宝珠橋、令和7年には大手門にあたる中ノ御門の復元が完了しました。今後は市民からの要望が強い二ノ丸三階櫓の早期復元に向けた取組を進め、新たな観光資源としてにぎわいを生み出していきます。



擬宝珠橋



中ノ御門